

6カ国からの研修生等が「芋川流域」を視察 ～ JICA課題別研修を支援しました ～

「洪水防災」をテーマとしたJICA課題別研修の一環で、6カ国(バングラデシュ、フィリピン、メキシコ、ペルー、スリランカ、東ティモール)から水災害対策に携わる行政関係者(研修生)が令和7年5月22日、土木研究所(水災害・リスクマネジメント国際センター)の博士課程学生等とともに、芋川流域(長岡市山古志地域等)を視察に来られました。

約21年前に発生した「平成16年新潟県中越地震」により甚大な被害が発生した芋川流域、大規模な河道閉塞箇所(東竹沢地区)での国による緊急対策(初動対応)および恒久対策(砂防堰堤の整備等)について学んでいただきました。

研修生からは、「初動対応中における下流住民への情報提供はどうしたのか」、「砂防堰堤の具体の役割とは何か」等の質問がありました。

湯沢砂防事務所では、今後も管内での研修等の実施を支援していきます。



甚大な被害を受けた芋川流域を説明
(やまこし復興交流館「おらたる」展示室)



大規模な河道閉塞が発生した箇所を視察
(芋川 東竹沢地区)



東竹沢地区で発生した土砂を利用した砂防堰堤を視察
(芋川 神沢川砂防堰堤(鋼製セル式))



最下流部に整備した遊砂地を視察
(芋川 竜光遊砂地)